

茨城県八千代町（国内 73 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 5 年 2 月 3 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、周囲に住宅や工場が点在する平地であった。
- ② 当該農場には 6 棟のウインドウレス鶏舎があり、各棟は内部が壁で区分され、1 棟当たり 2 鶏舎となっていた。発生鶏舎は、農場入口から最も奥（南側）の棟に位置していた。発生時には、全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。
- ③ 鶏舎は、6 棟中発生鶏舎を含む 2 棟が 2 階建ての各階背中合わせ直立 3 段ケージ 5 列（10 レーン）、4 棟が 3 階建ての各階背中合わせ直立 3 段ケージ 4 列（8 レーン）を有する。2 階及び 3 階の床はグレーチング構造であった。
- ④ 敷地内には鶏舎のほか衛生管理区域外に GP センター、鶏糞処理施設、事務所が併設されていた。

2 通報までの経緯

- ① 農場によると、発生鶏舎（通報時 520 日齢）では 1 月 12 日～30 日の平均死亡羽数は 10.7 羽/日であったところ、1 月 31 日の死亡は 27 羽と少し多かったが、散在していたため通報しなかったとのこと。翌 2 月 1 日は鶏舎全体に偏りなく 41 羽死亡し、鶏舎内が暑く感じたので換気不良を疑ったとのこと。
- ② 2 月 2 日、発生鶏舎の 1, 2 階中央から奥で、100 羽以上のまとまった死亡があり、確認と並行して家畜保健衛生所に通報したとのこと。最終的な死亡羽数は 1,000 羽を超えていたとのこと。調査当日も、同じエリアで多数の死亡鶏を確認した。発生鶏舎以外の鶏舎では飼養鶏に特段の異状は認められなかった。
- ③ 発生鶏舎の個体は、強制換羽後であったため、餌食いもよく産卵率も落ちていなかったとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 従業員のうち 42 名が農場内で作業しており、うち 12 名がそれぞれ専属で各鶏舎の管理を担当しているとのこと。夜の見回り時には担当以外の複数鶏舎を回ることがあるとのこと。
- ② 12 名中 8 名は外国籍であるため、各鶏舎の前室には英語、ベトナム語、タイ語が併記された靴や衣服の交換等の入退場手順を掲示していた。なお、最近海外から入国した者はいないとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場敷地及び衛生管理区域敷地の境界にはフェンスが設置されており、衛生管理区域は明確になっていた。農場全体に消石灰が撒かれており、散布頻度は 1 週間に 1 回ほどのこと。
- ② 従業員は、衛生管理区域外の駐車場に車を止め、区域外の更衣室で衛生管理区域専用の作業着、長靴、帽子を着用し、区域内に入るとのこと。鶏舎に入る際は前室で鶏舎専用の衣服、長靴、帽子、手袋の着用と手指消毒を実施するとのこと。全ての鶏舎入口に踏込み消毒槽（種類、交換頻度）及び衣類消毒用の電動噴霧器が設置されていた。
- ③ 農場に入場する外来業者は、車両消毒ゲートで車両消毒及びフロアマットを使用するとともに、農場入口に設置されている簡易小屋で専用靴への履き替え、防護服の着用、手指消毒を実施しているとのこと。鶏舎に入る外来業者については、従業員と同様に、鶏舎に入る際に前室で鶏舎専用の衣服、長靴、帽子、手袋の着用と手指

消毒を実施するとのこと。

- ④ 発生鶏舎内の換気は、鶏舎屋根上部のインレットから吸気し、鶏舎奥面の換気扇及び鶏舎側面から排気していた。鶏舎側面の排気口の周囲は臭気対策のため囲いがあった。農場によると、屋根裏部分は、昨年11月に全て点検し、網の破れや鳥の侵入の形跡等がないことを確認したとのこと。
- ⑤ 飼養鶏への給与水は井戸水を塩素消毒後ろ過して使用している。年2回水質検査を受けているとのこと。
- ⑥ 飼料は鶏舎横の飼料タンクからインラインで給餌されている。直近2週間の出入り記録から、飼料の運搬は1~2日に1回ほど行われていた。
- ⑦ 各鶏舎は集卵バーコンベアで連結されており、衛生管理区域外に併設された専用GPセンターへ集卵される。
- ⑧ 鶏糞は、発生鶏舎を含む4鶏舎では毎日ケージ上部に設置されたベルトに運ばれ乾燥させる。上記以外の8鶏舎では、ケージ横のベルトにて鶏舎側面部の乾燥設備に集積される。いずれも完全に乾燥させた後、ベルトコンベアで堆肥舎へ運ばれる。堆肥は袋詰めし、堆肥舎に近い消毒ゲートから衛生管理区域外の製品保管場所に移し、近隣農家が持ち出しできるようになっている。また、堆肥の一部はペレットに加工して輸出しているとのこと。
- ⑨ 死亡鶏は鶏舎ごとに毎日集め、運搬用のコンテナ（蓋なし）で回収後、冷凍コンテナにて保管していた。レンタル業者は回収時冷凍コンテナから運搬用コンテナを出し、衛生管理区域外に駐車したトラックへ移し替えるとのこと。
- ⑩ 発生鶏舎を含む全鶏舎は、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトの都度鶏舎内の清掃・消毒を行い14日間の空舎期間を設けているとのこと。直近の搬入は1月8日。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場によると、野鳥やネズミは見るとのこと。ネコはたまに見るが、それ以外の野生動物は見ないとのこと。
- ② ネズミ対策として、定期的に殺鼠剤及び粘着シートの設置を実施しているとのこと。調査時、発生鶏舎ではネズミの死体や天井に小さな穴が見られた。非発生鶏舎内でネズミが走る様子及びネズミの死体が認められた。
- ③ 集卵バーコンベアの鶏舎外走行部は上部・側面のカバーと下部のネットで覆われているが、一部破れがあり覆われていない部分を確認された。鶏舎開口部のシャッターの設置はないが、鶏舎の集卵バーコンベア出入口には、ネズミ除けの忌避超音波装置が鶏舎内側に設置されていた。
- ④ 鶏舎から堆肥舎まで鶏糞を運搬するベルトコンベアの経路には全てカバーがされていた。鶏舎開口部のシャッターの設置はない。
- ⑤ 鶏舎内の排水溝は木の板をはめて隙間を塞いでいた。
- ⑥ 農場によると、農場横に町が管理する調整池があり、水が溜まっていることは少ないとのことだが、普段から水鳥が来ていないか確認しているとのこと。なお、今シーズン、水鳥は見えていないとのこと。
- ⑦ 発生鶏舎側の境界にはフェンスとともにカラスウリ等の木が並んでおり、結実した実に野生動物の食痕が確認された。
- ⑧ 農場内ではハクセキレイ、カラスが確認され、鶏舎の屋根にスズメ、ハトが複数羽留まっていた。また、事務所近くの木にカラスが複数羽留まっていた。

(以上)